

令和5年度 八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会 議事録

1 開催日時

令和6年2月19日（月）18:30～20:10

2 開催場所

八千代市役所2階 第1・第2会議室

3 議題

議題1 八千代市の認知症施策と取組について（公開）

議題2 令和5年度 認知症初期集中支援チームが関わった事例について（非公開）

4 出席者名簿

＜委員＞計11名（敬称略・名簿順）

中村委員長，三浦委員，稲山委員，小川委員，池城委員，岩崎委員，柴田委員，
吉田委員，水戸部委員，松田委員，関根委員

＜事務局＞計4名

春田課長，石橋主査，笠谷主任主事，溝口主任保健師

5 公開又は非公開の別

一部非公開

6 非公開の理由

八千代市審議会等の会議の公開に関する要領 第4条第2号に該当
（理由）協議において具体的な事例を提示し，個人に関する事項を扱うため非公開とする。

7 傍聴者数

0名（定員5名）

8 会議内容

「令和5年度 八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会 会議内容」のとおり

令和5年度 八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会 会議内容

事務局（石橋）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和5年度八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しいなかお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

本日司会を務めます、福祉総合相談課 石橋と申します。よろしく願いいたします。

はじめに、小川委員につきましては、少し遅れて参加する旨ご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

本会議は、一部非公開会議としており、議題1を公開・議題2は非公開としております。「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」第4条の規定により、議題1のみ会議を公開するとともに、会議録作成のため、会議の状況を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

なお、録音機器とマイクを接続している関係から、発言する際はマイクのボタンを押して、マイクのランプが点灯してから発言をお願いいたします。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

まず、事前に送付させていただきました資料として

・次第

・委員名簿

【資料1】八千代市の認知症施策と取組について

【資料2】認知症サポーター・チームオレンジとは

続いて、本日机に置かせていただきました資料となりますが、

・席次表 です。

事務局に予備がございますので、不足している場合はおっしゃってください。

では、本会議の開催に当たりまして、福祉総合相談課長の春田よりご挨拶申し上げます。

事務局（春田）

福祉総合相談課の春田でございます。

本日はお忙しい中、令和5年度八千代市認知症初期集中支援チーム検討委員会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日ごろより本市の保健、福祉行政に対しましてご理解とご協力を賜り、この場をお借りし、厚く御礼を申し上げます。

昨年度まで本事業の事務を担当しておりましたのは長寿支援課地域包括支援センターですが、直営の大和田地域包括支援センターを民間委託することに併せ、「市民が相談しやすい窓口」「効率的に業務をすすめられる体制」「国の補助金等を有効に使った財政負担の軽減」の視点で組織の再編を検討し、令和5年度から、既存の福祉総合相談室の業務及び地域包括支援センターに残存する業務を基幹とする福祉総合相談課を設置するに至りました。

福祉総合相談課の設置の目的としては、「包括的な相談窓口」「包括的な支援体制の整備」「権利擁護体制の整備」「地域福祉の推進」の4つをすすめていくことであり、生活困窮者自立支援法を中心とした業務と委託地域包括支援センターの直接的な後方支援を担う「福祉総合相談班」と、包括的支援事業や一般介護予防事業の業務を担う「地域包括ケア推進班」の2班体制となっております。

さて、令和5年度は3か年を周期とする、第9次老人保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画により構成されます。八千代市高齢者保健福祉計画の最終年度に当たります。認知症施策の部分に関しては、令和6年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の基本理念を基に、次期計画の策定について検討いたしました。今更申し上げるまでもなく、高齢化の進展に伴い、認知症の方も増加する中、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って住み慣れた地域で暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進することがますます求められているものと認識しております。

このようなことから、今後の認知症施策の取り組みの検討を進めるにあたり、委員の皆様のご意見の忌憚のないご意見をいただきますよう、宜しくお願ひ申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局（石橋）

では、次第に沿って進めさせていただきます。初めに、委員の交代がございましたのでお知らせいたします。一般社団法人八千代市歯科医師会の中澤正博委員が辞任されたため、新たに稲山雅治委員に委員をお引き受けいただきました。稲山委員より一言ご挨拶をお願いいたします。

稲山委員

委員として任期を受けました稲山です。分からないことが多いと思いますが、勉強させていただきます。よろしくお願ひいたします。

事務局（石橋）

ありがとうございます。続きまして、事務局職員を紹介いたします。

事務局（春田）

春田です。よろしくお願ひいたします。

事務局（溝口）

溝口です。よろしくお願ひいたします。

事務局（笠谷）

笠谷です。よろしくお願ひいたします。

事務局（石橋）

改めまして、石橋です。よろしくお願ひいたします。それでは、ただいまより、会議に入らせていただきます。進行は中村委員長にお願いいたします。

中村委員長

八千代市医師会の中村でございます。お忙しい中、会議にご出席いただきありがとうございます。それでは、次第に沿いまして、進行させていただきますのでよろしくお願ひいたします。議第（1）「八千代市の認知症施策・取組みについて」事務局から説明をお願いします。

事務局（溝口）

議題（1）の「八千代市の認知症施策・取組みについて」ご説明いたします。**資料1**八千代市の認知症施策・取組についてを使って説明いたします。当市の認知症施策を推進するにあたり、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる」を目指す姿として、国が令和元年度に出した“認知症施策推進大綱”に沿って事業を実施しております。まずは、令和5年度の取組みについて報告させていただきます。大綱の項目である【普及啓発・本人発信支援】【予防】【医療・ケア・介護サービス・介護者

への支援】【認知症バリアフリーの推進，若年性認知症の人への支援・社会参加支援】の4つに分けて，実績を明記しております。

1 つ目の項目【普及啓発・本人発信支援】について，(1) 認知症に関する理解促進については，認知症サポーター養成講座の開催と9月21日の世界アルツハイマーデー及び9月の月間に合わせて，集中的な普及・啓発を実施いたしました。

認知症サポーター養成講座については，各地域包括支援センターが年間最低2回以上開催しております。昨年度のチーム検討委員会にて，子どもへの普及啓発に力を入れている自治体のご紹介やご意見もいただいたことから，まずは市担当者が講師としての経験を積む目的で，社会福祉協議会と地域の子ども会合同で行っているボランティア育成の講座にて認知症サポーター養成講座も開催させていただきました。小学生の内訳の1回がそれにあたり，残り2回は学校側から依頼があったものです。

世界アルツハイマーデー・月間での普及啓発としては，多くの方への認知症に関する普及啓発を目的として，各地域包括支援センターに配置している認知症地域支援推進員が中心となり，市と協働でイオンモール八千代緑が丘でイベントを開催いたしました。認知症疾患医療センターである八千代病院にもご協力いただき，イベントを開催することができました。内容としては，レビー小体型認知症の模擬体験ができるVR体験，音楽療法士・理学療法士による音楽・体操療法，相談等のブースを設け，当日は約180人の方に参加いただけました。イオンモールというお客様の出入りが多い商業施設でイベントが実施できたことで，イベントのことを知らなかった人も，買い物がてらイベントに参加でき，様々な方が認知症について知る機会となったのではないかと考えます。その他にも図書館に特設展示コーナーを設けたり，認知症のシンボルカラーであるオレンジ色のTシャツを着用し普及啓発に努めました。

2 つ目の項目【予防】については，各地域包括支援センターで実施している介護予防教室にて認知症予防をテーマに講座を開催しています。介護予防教室では「運動」「栄養」「口腔ケア」「認知症予防」の4つのカテゴリで内容を検討し，開催しているのですが，約半分の講座で認知症予防に関する内容を実施し，運動や脳トレ，栄養等の日常生活の中でできる予防について学べる機会となっております。

3 つ目の項目【医療・ケア・介護サービス・介護者への支援】については，

(1) 総合相談での認知症に関する相談の割合は，全体の新規相談数の約1割が認知症に関する相談となっており，例年同様で変わっておりません。

(2) 認知症初期集中支援チームに新規でつないだケースは1月末で4件。前年度からの引き継ぎケースが1件でした。チームの実績については，後半で改めてご説明いたします。

(3) 認知症の方の家族交流会に関しては，2回開催いたしました。1回目はグループホーム美乃里管理者の高山氏に，2回目は薬樹薬局薬剤師の埴氏に講師として来ていただきました。会の流れとしては，前半30分で講話していただき，後半約1時間を交流会の時間として設けております。講師の選定としては，アンケートにて希望があった内容や認知症地域支援推進員が日頃相談を受ける中で，課題と感じている内容に合わせて誰に依頼するかを決めています。参加者数としては，1回目が7名，2回目が12名であり，多い人数ではありませんが，交流会終了後のアンケートでは「他参加者の話が参考になった」と回答されている方が殆どで，交流の場を求めている人は多く，参加された方の満足度は高いことが分かりました。

(4) 医療介護従事者向け研修会については、八千代市認知症診療連携の会及びエーザイ株式会社で多職種研修会を開催し、市も協力させていただきました。

最後は4つ目の項目【認知症バリアフリーの推進、若年性認知症の人への支援・社会参加支援】についてです。今年度、八千代市で初めてチームオレンジが2ヵ所立ち上がりました。チームオレンジについて簡単に説明いたします。

資料2をご覧ください。チームオレンジの立ち上げに欠かせないのが「認知症サポーター」の存在です。先ほど、各地域包括支援センターが認知症サポーター養成講座を開催しているという話をしたのですが、認知症サポーター養成講座とは、約1時間半の講座で認知症に関する正しい知識と理解を深める講座となっております。認知症の方が地域で生活するにあたり、地域の方達が認知症に関して正しい知識を持っておくことは、とても重要であると考えております。したがって、まずは認知症サポーターを増やす取り組みとして講座を実施しております。そして、認知症サポーター養成講座を受ける方の中には、取り組みに際して積極的に協力したいと言ってくれる方も多く、その方達が認知症カフェやサロンを運営してくださっています。ただ、中には認知症の方の支援をしたいと思い、認知症サポーターとなったにも関わらず、活躍の場所を探している方もいらっしゃいます。支援できる方と支援してもらいたい認知症の方のニーズをマッチングさせる仕組みづくりがチームオレンジと言われておりますので、市としては積極的に協力したいと思っております。ただ、中には認知症の方の支援をしたいと思い、認知症サポーターとなったにも関わらず、活躍の場所を探している方もいらっしゃいます。支援できる方と支援してもらいたい認知症の方のニーズをマッチングさせる仕組みづくりがチームオレンジと言われておりますので、市としては積極的に協力したいと思っております。ただ、中には認知症の方の支援をしたいと思い、認知症サポーターとなったにも関わらず、活躍の場所を探している方もいらっしゃいます。支援できる方と支援してもらいたい認知症の方のニーズをマッチングさせる仕組みづくりがチームオレンジと言われておりますので、市としては積極的に協力したいと思っております。

今年度、八千代市のチームオレンジとして立ち上がったのは、既に認知症カフェを運営しているグループ2ヵ所です。今年度、もう1ヵ所勝田台に「ともカフェ」という認知症カフェが開設されたのですが、10月から開始となったことと現在は専門職が主に運営していることから、来年度以降お声かけさせていただこうと思っております。

チームオレンジとして活動するには、ステップアップ講座を受講していただく必要があるのですが、ステップアップ講座の内容は、サポーター養成講座より、より深く認知症の方のコミュニケーション方法について学べる内容となっております。受講後のアンケートでは「接し方について、よく知れた」という回答をいただきました。認知症カフェとは、認知症の人だけではなく、誰でも訪れることができる場所であり、認知症の方ご本人が参加された時に、その際に身構えることなく対応ができることで、認知症の方も安心して通っていただき、居場所となるのではないかと考えております。チームオレンジの説明は以上です。

(2) はいかい高齢者家族支援サービス及び(3) SOS ネットワークの実績報告は記載通りとなっております。地域の実情把握の1つの情報として今後も把握・分析していきたいと思っております。

続いて、令和6年度の取組と方向性についてご説明させていただきます。

認知症施策と一言で申し上げても、内容は多岐に渡り、限られた人員で効果的に事業を推進していくには、事業の優先順位を明確にした上で遂行していく必要があると考えております。「目指す姿」と「現状」の差を課題とし、そこから令和6年度の重点取組として3つ挙げました。

1つ目が『本人・家族の声を聴く』。2つ目が『認知症サポーターの対象拡大』。3つ目が『居場所づくり』です。この会議では、令和6年度の取り組み予定の中の、重点取組として行うことのみ、ご説明させていただきます。

【普及啓発・本人発信】の中の(1)認知症に関する理解促進に関しては、認知症サポーターについて2点記載しております。

1 つ目が小学生向けの認知症サポーター養成講座開催について検討・打診をすることです。現状では、認知症サポーター養成講座を開催したとしても参加者の年齢層は60～70歳代が殆どです。小学生等に行うメリットとしては、小学生本人だけでなく、その親への普及啓発にもなるということです。実はコロナ前に認知症地域支援推進員との会議の中で小・中学生世代への普及啓発の必要性が高いという話をしておりました。ただ、コロナ禍で講座開催ができない時期があり、中々推進できずにおりました。その検討の際に皆で作ったパッケージがあったり、現時点で各地域包括支援センターに小学校から直接依頼があったり、広げていく基盤は大体できております。令和6年度は、積極的に小学校へのアプローチ方法を検討していきたいと思っております。

2つ目として、先ほどチームオレンジの説明時にも簡単にお話したとおり、認知症サポーターになられた方が活動できる仕組みづくりも検討していきたいと思っております。

(3) 本人・家族の声を積極的に聴くに関しては、令和6年度の取り組みとして新規で入れたものです。本人・家族交流会の開催を考えており、これまでは家族のみ集まる会だったので、その場に本人も呼び、場所を分けて、それぞれが想いを話せる場を作りたいと考えています。ただ、これまで開催したことが無い為、他市や他団体が開催しているところに積極的に参加させていただき、情報収集し、本人ミーティング等の開催に向けても検討ができればと考えております。本人や家族が気軽に集まれる居場所づくりにも力を入れていきたいと思っております。行政の一方通行による設置ではなく、本人や家族のご意見を聴きながら、一緒に作っていききたいと思っております。

【医療・ケア・介護サービス・介護者への支援】の項目については、各地域包括で受けている総合相談の中で、本人や家族が困っていることやあったら良い支援を聴き取る機会が多くあります。その都度、対応していただいているのですが、その意見の記録を積み重ねていくと課題が見えてきたり、市の施策として反映できることもあると考え、各地域包括支援センターの職員の皆様にはこれまで以上にアンテナ高く、声を拾っていただき、記録を積み重ねることを協力いただきたいと思います。 (3) の本人・家族交流会の開催については、先ほど説明した通りです。

【認知症バリアフリーの推進、若年性認知症の人への支援・社会参加支援】の項目でのチームオレンジに関しては、今後のチームオレンジの設置についてと令和5年度に立ち上がったチームオレンジへの後方支援について検討していきたいと考えております。

事務局からの説明は以上です。

中村委員長

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明に対しまして、何かご質問・ご意見等ございましたら、ご発言いただきたいと思います。

水戸部委員

本人家族の声を積極的に聞くということで、以前、お話聞けるような、御本人御家族いませんかという声掛けを頂いたこともあります。病院などで、認知症の診断を受けている方ということに、なりますでしょうか。

事務局（溝口） ありがとうございます。認知症の診断の有無は重要視しておりません。認知症の診断を受けた受けていないに関わらず、年を重ねる事に認知症状は出てくる
ことが多いので、日常生活での困り事等を教えていただけたらと思っています。

中村委員長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

小川委員 少しずれた話になってしまうかもしれませんが、学校薬剤師の活動の中に、
今一生懸命力を入れていて薬の授業をしています。目的は色々あって「薬物乱
用防止」「子供たちが薬を正しく理解する」等です。薬物乱用防止に関して
は、犯罪と結びつけてやるので、今の40代位の方はその影響を強く受けてい
て、薬に対しての抵抗がすごく強いです。その辺も含めて正しく薬を理解して
もらう必要があります。
「薬を正しく理解する」に関しては、子供たちが薬を正しく飲めるようになれ
ばと。例えば、水なしで飲むとどういう影響なのかっていうのを教えると、子
供たちからは、「お父さんが勝手に水なしなんだ」とか反応があったり、おじ
いちゃんおばあちゃんの家に行った時に薬が沢山余っているという話をする
と、子供なりの意見を言ってくれるっていうのがあると思うんですね。
ですので、先ほど認知症のサポーター養成講座を子供たちに行うということ
は、我々がやろうとしていくことと近い部分があると思います。市でやろうと
していることを、学校薬剤師は知らないなので、その辺りのことを、ぜひ伝えさ
せてもらい、薬の授業の中でも子供たちもできることがある。1つは、認知症
のサポーターだよって話をぜひさせていたいただきたいと思います。

中村委員長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。
質問がございませんので、以上で議題（1）を終了いたします。

それでは、これより非公開の会議となります。